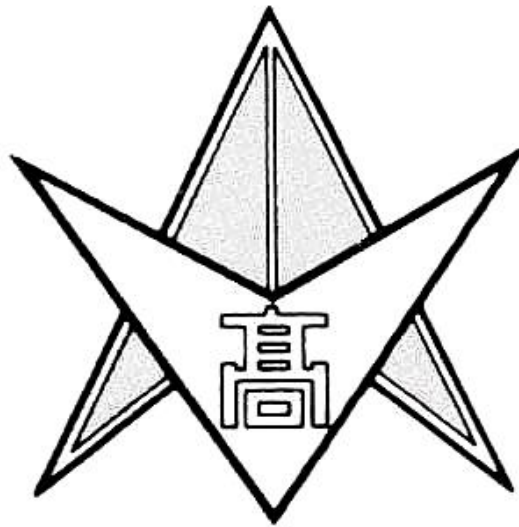


あゆみ

第56号

令和元年度



秋田県立大曲高等学校

あゆみ

第56号

目次

【巻頭言】

あたりまえの「大曲高校スタンダード」・・・・・・・・・・校長 近江谷正幸・・・・ 1

【研修記録】

国語科校内研究授業記録 国語総合学習指導案・・・・・・・・小川 康・・・・ 2

地歴公民科校内研究授業記録 日本史B学習指導案・・・・・・・・戸嶋あきほ・・・・ 4

数学科校内研究授業記録 数学I学習指導案・・・・・・・・小田嶋芳和・・・・ 7

理科科校内研究授業記録 生物基礎学習指導案・・・・・・・・佐藤 賢輝・・・・11

地学基礎学習指導案・・・・・・・・加藤 祐毅・・・・13

保健体育科校内研究授業記録 体育学習指導案・・・・・・・・竹村 紀子・・・・16

芸術科校内研究授業記録 書道学習指導案・・・・・・・・竹村 美範・・・・19

英語科校内研究授業記録

コミュニケーション英語Ⅲ学習指導案・・・・・・・・三浦俊太郎・・・・21

表現I学習指導案・・・・・・・・ヘイリー・ガーラック 近江 豊・・・・23

家庭科校内研究授業記録 家庭基礎学習指導案・・・・・・・・小澤 裕子・・・・27

高等学校中堅教諭等資質向上研修・・・・・・・・小田嶋芳和・・・・29

三浦俊太郎・・・・30

【トピックス】

学力向上フォーラムを終えて・・・・・・・・・・研修部・・・・32

【学 科】

商業科の取り組み・・・・・・・・・・商業科 佐々木優子・・・・36

表紙題字

竹村 美範（天祐）

あたりまえの「大曲高校スタンダード」

校長 近江谷 正 幸

先日、1月中旬とは思えないおだやかな天気の中、最後の「大学入試センター試験」が実施された。来年から実施される「大学入学共通テスト」では、国語と数学に記述式解答を導入することや、英語の民間試験を活用することが大学入試改革の大きな柱となっていたが、さまざまな課題が指摘され、実施が見送りとなった。本校でもいろいろと準備していただけて徒労感を禁じ得なかったが、不安な点も多かったため、安堵している部分もある。

とはいえ、大学入試改革が頓挫したわけではない。入学選抜において能力・意欲・適性を多面的・総合的に評価・判定するものに転換するという入試改革の方向性は変わっていない。「大学入学共通テスト」では会話文を題材とした問題や複数テキスト問題が導入されるなど、思考力や判断力を問う問題が多くなるだろう。試験の方法が変わろうが変わるまいが、何かの導入が見送りとなってもならなくても、授業を通して求められる生徒の学力を高めていくことに変わりはない。

何よりも、令和4年度入学生から実施される新学習指導要領に向けた対応が迫られている。新しい学習指導要領は、知識及び技能の習得と思考力、判断力、表現力等の育成のバランスを重視する現行学習指導要領の枠組みや教育内容を維持した上で、知識の理解の質をさらに高め、確かな学力を育成するものである。そして、社会で求められる資質・能力を全ての生徒に育み、生涯にわたって探究を深める未来の創り手として送り出していくことが求められる。そのため「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善が必要であり、特に、生徒が各教科・科目等の特質に応じた見方や考え方を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したりすること、さらに、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう過程を重視した学習の充実が必要と言われている。

このように、知識の理解の質を高め、資質や能力を育む「主体的・対話的で深い学び」が新しい学習指導要領のキーワードになっているが、本校ではそのことに早くから着目し、4年前から「何を教えるか」という知識の質や量の改善はもちろんのこと、「どのように学ぶか」という学びの質や深まりを重視すること、さらに課題の発見と解決に向けて生徒が主体的・対話的に学ぶ学習、いわゆるアクティブラーニングや、そのための指導方法等の充実を研修テーマとして取り組んできた。一昨年度からは、「生涯にわたって学び続ける意欲と力を育む～課題解決志向型授業『大曲高校スタンダード』を通じて」を研究主題とし、「探究活動等実践モデル校」として授業改善の取組を進めてきた。

本校に赴任するにあたり、「秋田県学力向上フォーラム in 大仙市」で、高等学校の協力校として授業を公開することがすでに決まっていた。これは、大仙市内の小・中学校及び高等学校で行う公開授業及び実践発表や講演等を通して、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の活性化と、優れた授業実践の継承の在り方について考える機会とするもので、全国から多くの教員が参観に来る一大事業である。学力トップクラスの本県に向けられる他県からの注目度は高く、「学力向上フォーラム」の参加者は年々増加している。「探究活動等実践モデル校」として授業公開した実績があるとはいえ、今度は全国に向けた発信となる。

いくばくかの不安をかかえての赴任であったが、着任してすぐにそれは払拭された。「大曲高校スタンダード」が日常としてすっかり定着しているのだ。研究のための研究ではなく、すべての教科で「大曲高校スタンダード」があたりまえになっている。このことには深い感銘を受けた。そのうえ、9月が過ぎ、10月になっても校内に公開研究会を迎える前の張り詰めた雰囲気がない。公開の11月が迫っているにもかかわらず、改まって全校で校内研究会をやるという動きもない。公開のための特別な授業をするのではなく、すっかり定着した日常をそのまま公開するというのが本校の姿勢だった。これは、これまで取り組んできた実績によって裏打ちされた自信とっていいであろう。

公開までの取組や当日の様子などについては、このあとの本編で詳述されていると思うので、そちらに譲ることとするが、一つだけ言えることは、本校にとって「大曲高校スタンダード」はまさにスタンダードであり、あたりまえのこととして取り立てて主張したり強調したりする必要がないものになっているということである。

新しい学習指導要領が完全実施されるときには、さらに次の高みを目指して模索しているだろう。

第1学年12R 国語科（国語総合） 学習指導案

日 時 令和元年11月23日（土）

① 9:30～10:20

対 象 12R（普通科）32名

教科書 桐原書店 新探求国語総合 現代文・表現編

授業者 小川 康

- 1 単元名 評論編Ⅲ 『わかろうとする姿勢』
- 2 単元目標及び生徒に働かせたい主な「見方・考え方」

(1) 単元目標（育成を目指す資質・能力）

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
「他者を理解する」ということについて新聞記事にある社会的な話題を参考に、どうすれば「わかろう」とすることなのか、或いは「わかる」ことができたのか、論証することで筆者の主張と情報の関連について理解を深める。	本文の筆者の主張と新聞記事にある社会的な話題を比較検討、分析した上で、「わかろうとする姿勢」について考え、グループ内の話し合いを基に、様々な観点から意見や考えを発表する。	様々な資料を調べ、導き出された考えを発表する中で、主体的に問題解決に取り組み、社会問題を自らのこととして捉える。

(2) 生徒に働かせたい主な「見方・考え方」と目指す生徒の姿

「わかる」という行為に着目し、筆者の主張と新聞記事の社会的な話題を関連付けて考えること。

自らの考えを様々な資料を参考に論理立てて発表しながら、他者の意見を受け入れ、さらに考えを深め論理的に説明する姿

- 3 単元と生徒

(1) 生徒について

一年生はNIEの取組として普段から新聞を活用した授業を行っており、生徒の新聞に対する抵抗は少ない。中でも本学級は国語学習に対する意欲が高く、課題への取組も積極的である。またNIE学習においても真摯に向き合い、自分の意見を発信したがる生徒が多い。しかし語彙力や知識量の乏しさ、意見を論理的に述べる経験の少なさが今後の課題であり、自分の意見とは違う他者の意見を客観的に捉える姿勢を養うことが必要である。そのため講義型ではなく、自由に発言する場を設けた授業が望ましいと考えた。一人ひとりが社会問題について積極的に向き合い、他人事としてではなく自分の問題として引きつけ、他者の意見を受け入れたうえで自らの考えを深める気持ちを引き出し、互いに高め合える力を養う。本授業の為に事前準備として夏休み前から「身の回りにある問題」について新聞記事を収集させた。「各グループの話し合い、発表の時間について綿密な設定をして発表」の活動を通して、文章の内容を深く考え、自分自身の生き方や人生に生かしていく態度、仲間の考えに耳を傾け、自分の考えを自分の言葉で話すことができるコミュニケーション能力を育てていきたいと考えている。

(2) 単元について

本単元は、「わかる」ということ、「他者を理解する」ということについて書かれた評論である。理解するというのは感情・意見の一致をみるのではなく、自他の差異を思い知らされることであり、他者の理解においては思いをわかろうとする姿勢の意味は大きく、言葉を受け入れられた、肯定されたという感触が大切であるということが述べられている。一番大切なのは、理解できなくてもその場から立ち去らないこと、つまりわかろうとする姿勢であることを捉えさせる文章である。単元学習の後のグループワークで生徒が主体的に考え、対話し、活動するという授業により、生徒が互いに学びあい高め合う成長を促したい。

4 本校の研究主題との関わり

研究主題 生涯にわたって学び続ける意欲と力を育む
 ～課題解決志向型学習「大曲高校スタンダード」を通じて～

「学び続ける意欲と力を育む」ことを図る授業改善の視点

- 生徒の関心を高め課題意識をもたせる主発問に基づいて授業を構成する。
- 主体的・対話的な活動の時間（AT）の中で、自らの考えを深める力を養う。
- 主体的・対話的で深い学びを促す振り返りを工夫する。

5 指導計画 [6時間]

- (1) 導入・第一段落の読解（「全人的理解」要請の背景） (1時間)
- (2) 第二、三段落の読解（「他者の理解」と看護・「わかり合う」とは何か） (1時間)
- (3) 第四段落の読解・まとめ（理解するためにどうすることが大切か） (1時間)
- (4) 「切り抜き新聞」作成準備 (2時間)
- (5) グループ意見の発表 (1時間) 〈本時〉

6 本時の学習

- (1) ねらい 社会問題を題材に「理解する」ことについての考えを深めることができる。
- (2) 学習過程

A：知識・技能 B：思考・判断・表現 C：主体的に学習に取り組む態度

段階 時間	学習活動	指導上の留意点	評価の観点
導入 5分	・本時の目標を確認する。 ・「理解する」ということに対する筆者の見解を確認する。	・一般的な「理解」と筆者のいう「理解する」ことの違いを意識させる。	
学習課題：社会問題の中で「理解する」場面はどこか？			
展開 35分	・各グループが焦点を当てた社会問題について、筆者の意見をもとに「理解する」という観点で発表する。 5分×6グループ	・自グループの意見と筆者の意見の相違点を意識して発表する。 ・発表態度・聞く態度に注意を促す。	・発表が深く考えられた内容か。(B)
まとめ 10分	・本時の振り返り 振り返りシート	・他グループへの感想と自グループの反省を通じて考えたことは何か。	・他グループの意見を客観的に読み取り、自分の言葉で書かれているか。(B)

7 本時の評価

評価項目	評価の視点 (評価規準)		努力を要する生徒への支援
	十分満足できる (A)	おおむね満足できる (B)	
思考・判断・表現	本文の「理解する」ことを理解して社会問題を扱っている。	一般的な「理解する」と筆者の「理解する」の違いを理解している。	なぜ相手を「理解する」ことが大切なのか考えさせる。
思考・判断・表現	社会問題を自分の問題として継続的に考え、今後の人生に活かすことができる。	社会問題を自分の問題として引きつけて考えることができる。	身の回りの社会問題について考えさせる。

地理歴史科（日本史 B）学習指導案

日 時 令和元年 9 月 27 日（金）
 対 象 2 年文系（23R）日本史 B 選択者
 授 業 者 戸嶋あきほ
 教 科 書 「詳説 日本史 B」 山川出版社

1. 単元名 第 4 章 中世世界の成立

2. 単元の目標

- (1) 武家政権の成立と展開、産業の発達、宗教や文化の展開に対する考察を基に、その歴史的特色に対する関心を高め、意欲的に追究しようとしている。
- (2) 公武関係や東アジアとの交流の変化・影響に着目し、諸資料から情報を選択することで歴史的意味や意義を多面的・多角的に考察し、まとめることができる。

3. 生徒観

第 2 学年文型クラスの 23R の日本史 B 選択者で構成され、男子 4 名、女子 19 名の合計 23 名である。日本史学習に対する意欲は高いと感じるが、その意欲が前面にみられるというよりは、落ち着いた雰囲気の中でゆっくり考え、取り組もうとする生徒が多い。

4. 単元計画（15 時間）

単 元	授 業 目 標	時間配当
鎌倉幕府の成立	鎌倉幕府は何年に成立したといえるか。	1.5 時間
	なぜ諸国の武士は幕府（頼朝）に従ったのか。	1 時間
	幕府成立で日本全国が幕府に支配されたといえるか。	0.5 時間
武士の社会	なぜ源氏将軍が 3 代で終わり、北条氏が台頭できたか。	1 時間
	承久の乱は幕府の支配をどう変えたか。	1 時間
	北条氏の執権政治を強化したものは何か。	1 時間
	荘園領主は地頭の土地侵略にどう対処したか。	1 時間
蒙古襲来と幕府の衰退	蒙古襲来を機に幕府は誰に何を命令できるようになったか。	1 時間
	蒙古襲来は幕府支配をどう変えたか。	1 時間
	12～13 世紀の琉球と蝦夷ヶ島はどんな社会だったか。	0.5 時間
	何が人々の生活を変えたか。	0.5 時間
鎌倉文化	何が幕府を衰退させたか。	1 時間
	鎌倉時代の文化にはどんな特徴があったか。	1 時間
	仏教と人々はどんな関わりを持ってきたか。	1 時間
	鎌倉新仏教は何が新しかったのか。	1 時間(本時)
	旧仏教側は何を変えたか。	1 時間

5. 本時の学習

①本時のねらい

鎌倉仏教の拡大の理由を多面的、多角的に考察し、説明できるようになる。

②学習過程 A 関心・意欲・態度 B 思考・判断・表現 C 資料活用の技能 D 知識・理解

時間	学習活動	指導上の留意点	評価の観点
導入 5分	<p>①私たちは現在、寺とどのように関わっているか。</p> <p>1 現代生活と仏教との関わりを話し合う。</p>	<p>・現在の信徒数、寺院数を紹介し、目標を多角的に考えられるようにする。</p>	A B
展開 30分	<p>鎌倉新仏教は何が新しかったのか。</p> <p>②人々は、仏教に何を求めたか。</p> <p>2 人々が仏教に求めたものを横のペアであげる。 3 開祖の生涯を確認し、共通点や特徴をまとめる。 4 本時の手順を確認する。</p> <p>③救われるためには何をすればよいか。</p> <p>5 「一枚起請文」「正法眼蔵随聞記」から何をすれば救われるかを読み取り、座席の縦のペアでまとめる。 6 席の横のペアとまとめたことを説明しあう。</p> <p>④共通することは何か。</p> <p>⑤人々はそれをどう受け止めたと思うか。</p> <p>7 座席の横のペアに記入したものを見せ合い、説明しあう。 8 親鸞の教えにも④・⑤の答えが当てはまるか確認する。</p>	<p>・鎌倉新仏教の僧の生涯と古代の官僧との違いに気づかせることによって鎌倉仏教の新しさの一面を捉えることができるようにする。</p> <p>・作業プリントを工夫することで史料から問いの解決へスムーズに繋がられるようにする。</p> <p>・「歎異抄」から「悪人正機説」を紹介し、「すべき」ことが明確で「救い」の対象が広いことに気づかせ、鎌倉新仏教の特徴の理解を深めさせる。</p>	A B C B C A B A B B C
	まとめ 15分	<p>8 学習内容を踏まえ、課題を完成する。 9 座席の縦横4人で課題を回し、他者の意見も確認する。</p>	<p>・葬儀に関わることになったのも最初は鎌倉新仏教であったことを説明し、導入の内容と繋げさせる。</p>

6. 本時の評価

評価項目	評価の視点 (判断基準)		努力を要する生徒への支援
	十分満足できる	おおむね満足できる	
関心・意欲・態度	問いに対する答え考察する際にペアを主導することができる。	問いを主体的に考察することができる。	問いの語句を置き換え、身近なものにすることで解決に向かえるようにする。
思考・判断・表現	問いに対する考察の過程や根拠を示し、説明することができる。	問いに対する考察の過程を理解し、表現することができる。	他者の意見を参考にさせて、課題解決に向かえるようにする。
資料活用の技能	資料から問いに対する答えを導き出すだけでなく、小さな問いの関連性も踏まえることができる。	資料から問いに対する答えを導き出すことができる。	資料から受けた印象を言葉で表現させ、そこから問いへの答えを見いだせるようにする。

【授業後の教科研究会】

1 1ヶ月前課題への地歴公民科としての取り組み

教諭：藤田理

「主発問を生かした授業を展開し、主体的な学びと学習内容の定着・深化をはかる」
について、補助発問を用意し、ペワワークなどをとりいれるなど地歴公民科各人が取り組んだ。

2 授業担当者から

大げさなアクティブではなく、普段の授業の中で課題解決のために考えたり、説明したりできる授業をめざしている。今日は生徒達がとても頑張ってくれ、史料原文の音読は普段より大きな声だった。

3 研究協議

1班・工夫…主発問が常に見えていた。原文を読ませるのもよい。ペア活動も効果的だった。座席の縦と横の使い方もとてもよかった。

・改善点…副発問の多さが主発問をぼやけさせる。原文を読ませるのも一度模範を示すべきではないか。

2班

・工夫…普段からの学習の様子がよく見えた。移動がなくてもアクティブな活動ができる点が参考になった。仏教にあまり興味をもっていないが大切な分野。興味の持たせ方が重要だと感じた。

・改善点…プリントはサイズに注意か。

質問…生徒が発言する場面がない、黒板とプリントとのリンクがない、正解を言わない点は意図的か？

授業者

黒板とのリンクは普段はもっとあるが、今回は自分でプリントを用いて史料を読み、主発問の内容を捉え、自分の問題として考えることを中心にやりたかった。英語とは違い発音や読み方が中心の科目ではないため毎回模範を示すことはしていないが、日本史の史料に慣れるまでの2ヶ月くらいは私が読むことが多かった。正解について、本時は捉え方の授業なので正解を私が言う必要はなかった。確認が必要などところについては何度か強調したつもりである。普段から発問について生徒には当てて全体に向けて答えさせてはいない。ペアで片方に答えさせ、解答が違ったらそれぞれなぜそうなったのかを話し合わせている。当てれば正解しか言わなくなってしまうし、その他の生徒が考えなくなってしまう。その代わりに、机間指導の際になどに考えて欲しい点や付けたしてほしい点を個別にアドバイスしたり、それを全体に伝えたりと工夫している。授業の最後のまとめについては、ある程度まとめやすいかたちの授業を実施してから書かせている。文章表現について個人的に確認をしてくださいと来る生徒もいる。

4 指導助言 勝又指導主事より

・史料を直接読ませ、内容を考えさせている点がとても良かった。歴史に触れる高校らしい授業だった。教科間交流も期待できる。普段触れることの少ない仏教を一点集中で掘り下げる授業の組み立てがされていたところもよかった。用語の穴埋めではなく自分の考えを書くことができるプリントにより、自分で考える授業であった。AとBでグループ分けされ、同じところからスタートし、分かれてから同じゴールに向かうというやることがはっきりしている授業だった。主体的・対話的であった。

・今後引き続き検討してほしい点…なぜ？という仕掛けを積み重ねて「だから」を生み出す授業を構成して欲しい。

数学 I 学習指導案

実施日時 令和元年 9 月 27 日 (金) 5 校時
 実施対象 12R (普通科) 32 名 (男子 15 名, 女子 17 名)
 授業者 小田嶋 芳和
 教科書 改訂版 高等学校 数学 I (数研出版)

1 単元名 数学 I 第 4 章 図形と計量 (第 2 節 三角形への応用)

2 本時の目標 三角形の残りの辺の長さや角の大きさを求めることができる。

3 単元と生徒 活発な生徒が多く、普段から授業中も積極的に発言する。学び合いや教え合う姿もよく見られ、何事にも意欲的に取り組むクラスである。数学を苦手としている生徒もいるが、互いにサポートしあうことで、授業時間内での理解や習得に努めている。この単元では、正弦定理、余弦定理を理解し、平面図形や空間図形の計量に活用できるようにすることを目標としている。正弦定理、余弦定理などが図形の計量に有用であることを認識し、積極的に活用できるよう、正弦定理や余弦定理を使用する際のポイントを押さえながら指導にあたりたい。また同時に、基礎的な計算の定着も図っていききたい。

4 指導計画 第 4 章 図形と計量 8 時間
 第 2 節 三角形への応用
 正弦定理 1 時間
 余弦定理 1 時間
 正弦定理と余弦定理の応用 2 時間 (本時 1 / 2)
 三角形の面積 2 時間
 空間図形への応用 2 時間

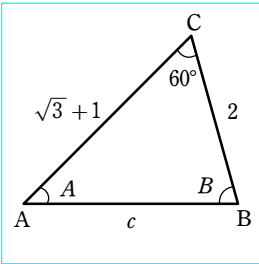
5 本時の学習

(1) 本時のねらい

様々な解法の良さを理解し、三角形の残りの辺の長さや角の大きさを求めることができるようになる。

(2) 学習過程

A : 関心・意欲・態度 B : 数学的な見方や考え方 C : 数学的な技術 D : 知識・理解

時間	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点	評価の観点
導入 5 分	<p>○問題を提示する。 (教 p.147 例題 8)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>$\triangle ABC$ において、$a = 2$, $b = \sqrt{3} + 1$, $C = 60^\circ$ の とき、残りの辺の長さや 角の大きさを求めよ。</p> </div> <p>○$\triangle ABC$ の図を描く。</p>	<p>・最初に図は提示せず、生徒にそれぞれ描かせる。定規を使わないように指示する。</p>  <p>・図を提示し、自分で描いた図と比べながら、本時で使用する図をプリントにまとめる。</p>	

展開 40分	○本時の目標を確認する。		A
	<p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px;">三角形の残りの辺の長さや角の大きさを求めよう。</p> <p>○行き詰まる解答例から、問題を解くポイントを確認する。</p> <p>○問題を解く。 (教科書の解法を確認する。)</p> <p>○別解を考える。</p> <p>○グループで出た考えを発表し、解法をグルーピングする。</p> <p>○それぞれの解法の特徴をまとめる。</p>	<p>・式に分からないものが2つあれば、解を求めることができないことを確認する。</p> <p>・辺 AB を先に求める必要があることを確認し、更に$\angle A$ と$\angle B$ を教科書の解法で解く。(一斉)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>《発問》 $\angle A$ と$\angle B$, または AB も含めて、他の方法で求めることはできないだろうか。</p> </div> <p>・個人 (3分) →グループ (10分)</p> <p>・最後まで解けていなくても解答を残しておくように指示する。</p> <p>・ラミネートシートを各班に配布し、解法をまとめさせる。その際、計算過程は省略するよう指示する。</p> <p>・時間の余裕があれば、解の出ない$\angle B$ の計算にも触れ、75° の三角比についても話をする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>《発問》 なぜ教科書では余弦定理の方法を選んでいるのだろうか。</p> </div> <p>・正弦定理の解法は「角度の吟味」が必要であることを確認する。</p>	
整理 5分	○確認問題を解く。 (教 p.147 練習 27)	<p>・余裕があれば複数の解法で求めるよう指示する。</p> <p>・個人で3分解いた後、全体で解答を確認する。</p>	C

6 本時の評価

評価項目	評価の視点 (判断基準)		努力を要する生徒への支援
	十分満足できる (A)	おおむね満足できる (B)	
関心・意欲・態度	問題の図形の特徴を考察し、三角形の残りの辺の長さや角の大きさを求める方法を意欲的に考えている。	友人と協力しながら、三角形の残りの辺の長さや角の大きさを求めている。	正弦定理を使える条件や、解法で使用する直角三角形のヒントを与える。
数学的な技能	三角形の残りの辺の長さや角の大きさを、複数の解法で求めることができる。	三角形の残りの辺の長さや角の大きさを求めることができる。	教科書の解法を参考にしながら解くようにアドバイスする。

数学分科会

令和元年9月27日(金)

参加者 義務教育課 藤原 孝一 副主幹 長門 亮 指導主事
英語科 近江 豊 小松 千明
商業科 糸井 一保
国語科 小川 康
数学科 進藤 健悟(司会) 小田嶋 芳和(授業者) 柴田 美来
山手 菜々子(記録)

1 授業者より

・前回からの改善点

前回の訪問にて、生徒にあえてつまづかせる場面や生徒に発表させる場面をつくってみてはどの指摘があったので、今回はその点に配慮しながら授業を組み立てた。

・今回の反省点、今後の授業へ活かせること

生徒は活発に活動できていた。しかし、そのために時間がかかってしまった。今後は決められた時間の中で解答をまとめる力をつけさせていきたい。

計算にてこずる生徒もいたが、質問もあり、最後まで自分の力で解ききることができていた。

ホワイトボードを使用したかったが、ラミネートシートでも十分に対応できた。今後もこのやり方を続けていきたい。

2 参観者より

【近 江】活発な意見交換があってよかった。プレゼンテーションの指導になっていた。生徒が最終的に一般化できるような授業展開がよかった。

【小 松】言語活動が多く驚いた。まとめるのに時間がかかったとのことだったが、最後のまとめまで終えられたことは効果が大きい。生徒の意見が多いほどまとめが大変になるが、今日の授業は授業者によって上手にまとめられていた。

【糸 井】グループのつくり方は？

【小田嶋】いつもの席順のままのグループで実施した。

【糸 井】分からない者同士が組んでも話し合いが活発にいかない。商業科ではリーダーをつかってグループワークをさせている。今日の授業では、グループ間で多少話し合いの活発度に差が見られたものの、特に配慮がなくてもグループ活動ができていた。

【小 川】1つの課題に対して、グループごとに解決を図る取り組みは国語科でも実施している。しかし、国語の場合はゴールが違う。数学の場合はゴールが同じ。数学の楽しさはここにあると思った。生徒たちも終始楽しそうであった。

【柴 田】生徒がいきいきと活動している姿が印象的だった。課題設定が適しているからだと思う。グループの考えを発表する場面で、生徒は進んで前に出ていた。発表者は決まっていたか？

【小田嶋】意見をまとめるのに苦労しているグループもあったが、生徒が頑張ってくれた。生徒の積極性に、自分自身も驚いた。

3 協議

【近 江】補助線を引く解法は、どのぐらいの生徒が出してくると想定していたか。

【小田嶋】他クラスで実施したとき、この解法はほとんどのグループで出てきたので、むしろ、正弦定理の解法をどうやって出すかに気がついた。

【近 江】題材の選定に工夫が必要なのだろうと感じた。

【進 藤】 $\sqrt{3+1}$ という数の扱いや 60° などの特別な角について

生徒は垂線を縦に(水平面に対して垂直に)ひきたがる。そういった誤答にも、深み、面白みがある。

【藤 原】 135° は最初から想定していたか？

- 【小田嶋】他クラスで実施したとき、正弦定理を用いていた班があり、紹介したいと思った。
- 【藤原】誤答からの理解の深まりに対する、生徒の驚きが大変印象的だった。
- 【長門】小・中であれば、意図的につまずいたものを掲示することもある。途中までのもの、誤答を意図的に掲示することも効果的である。
- 【小田嶋】最初に $\sin B$ を求めようとしていた班もあった。紹介してもよかったと思う。
- 【進藤】計算の苦労をあえてさせる、見せることで、その解法のよさが際立つこともある。数Ⅱへの導きの題材にもなる課題であった。
 $3 + \sqrt{3}$ について…… 3 と $\sqrt{3}$ が約分できる感覚が生徒には足りていない。
- 【藤原】有理化できることも紹介したらよかったのかもしれない。
- 【進藤】解の吟味についても、やはり大切であると感じた。

4 指導助言

長門 亮 指導主事より

- ①いきいきした授業であった。教師の熱意、生徒の必死さ、感動が見られる授業であった。今後もこのような授業を続けてほしい。
- ②最近の授業は、発表のさせ方、言葉の使い方等、教師の指導技術に目が向いている感がある。しかし、今日の授業は、算数・数学の本質に迫る、魅力的な授業であった。何に注目し、何をを使って問題を解決していくかが明確であった。
- ③つまずきに寄りそう授業を目指したい。「今日のこの問題が解決できればいい」ではなく、生徒自身がつまずいたことを思い出して、それを解決の材料にできるように指導したい。

【伝達】田口指導主事より

- ①グループ活動が機能していた。
- ②中学校の学びが生きている。
- ③既習内容が活用されている。

藤原 孝一 副主幹より

本校生徒の弱みは何か、十分に理解したうえでの授業づくりであった。前回の訪問から課題が改善されていてありがたかった。様々な研修の題材にしたいくらい、素晴らしい授業であった。

第2学年24R 理科（生物基礎） 学習指導案

日 時 令和元年11月23日（土）
 ② 10:50～11:40
 対 象 24R普通科文型43名
 教科書 数研出版 生物基礎
 授業者 佐藤 賢輝

1 単元名 第2章 遺伝子とのはたらき

2 単元目標及び生徒に働かせたい主な「見方・考え方」

(1) 単元目標（育成を目指す資質・能力）

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
遺伝情報とDNA、タンパク質の合成を理解する。	遺伝情報が、DNAの塩基配列からmRNAの塩基配列に転写され、アミノ酸配列に翻訳されると考えることができる。	遺伝子の発現について主体的に関わり、科学的に探究しようとする。

(2) 生徒に働かせたい主な「見方・考え方」と目指す生徒の姿

転写・翻訳の流れに着目し、タンパク質合成と関連づけて考えること



遺伝的多様性を理解しながら、遺伝子の発現の違いを説明する姿

3 単元と生徒

(1) 生徒について

遺伝子の発現についてはすでに学んでいるが、発展的な内容を学ぶことで遺伝的多様性について考えることができる。

(2) 単元について

遺伝子が発現するとは、DNAの塩基配列が転写・翻訳を経てタンパク質が合成されることだが、スプライシングにより遺伝的多様性が大きくなることを理解する。

4 本校の研究主題との関わり

研究主題 生涯にわたって学び続ける意欲と力を育む
 ～課題解決志向型学習「大曲高校スタンダード」を通じて～

「学び続ける意欲と力を育む」ことを図る授業改善の視点

- 生徒の関心を高め課題意識を持たせる主発問に基づいて授業を構成する。
- 主体的・対話的な活動を通して、生涯必要な探究の姿勢や自らの考えを深める力を養う。
- 主体的・対話的で深い学びを促す振り返りを工夫する。

5 指導計画 [7時間]

- | | |
|--------------|---------------|
| (1) 遺伝情報とDNA | (2時間) |
| (2) 遺伝子の発現 | (3時間) (2/3本時) |
| (3) 遺伝情報の分配 | (2時間) |

6 本時の学習

(1) ねらい

遺伝子の発現について、転写・翻訳のしくみを理解し自分の言葉で説明することができる。

(2) 学習過程

A：知識・技能 B：思考・判断・表現 C：主体的に学習に取り組む態度

	学習活動	指導上の留意点	評価の観点
導入 5分	<ul style="list-style-type: none"> 塩基配列がアミノ酸配列を指定することを確認する。 学習課題を確認し、予想を記入する。 	<ul style="list-style-type: none"> タンパク質がアミノ酸でできていることを確認させる。 予想を記入させる。 	
学習課題：遺伝子からどのようにしてタンパク質（形質）がつけられるのか			
展開 35分	<ul style="list-style-type: none"> グループごとに予想を共有する。 各グループから3人ずつ、①～③の各エキスパートグループに行き、エキスパート学習を行う。 <ul style="list-style-type: none"> ①転写のしくみ ②スプライシング ③翻訳のしくみ ①～③のエキスパート学習で学んだことを各グループに戻って、教え合い、ジグソー活動に取り組む。 クロストークを行い、全体で意見を共有する。 	<ul style="list-style-type: none"> グループになり、予想を共有させる。 3つのエキスパートグループをつくり、①～③の各エキスパート学習に取り組ませる。 <ul style="list-style-type: none"> ①では、転写について確認させる。 ②では、スプライシングについて確認させる。 ③では、翻訳について確認させる。 ①～③で学んだことを各グループに戻って教え合わせ、課題に取り組ませる。グループの結果を自分の言葉でプリントにまとめさせる。 グループごとに説明させ、全体で共有させる。 	<ul style="list-style-type: none"> エキスパート学習で学んだことを、自分の言葉で説明できているか。(B) 遺伝子が発現するとはどのようなことか理解できたか。(A)
まとめ 10分	<ul style="list-style-type: none"> 本時の学習の振り返りを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> R80（リフレクションシート）に記入させ、本時の振り返りをさせる。 	

7 本時の評価

評価項目	評価の視点（評価規準）		努力を要する生徒への支援
	十分満足できる（A）	おおむね満足できる（B）	
主体的に学習に取り組む態度	遺伝子の発現について積極的に調べようとしている。	転写・翻訳について積極的に調べようとしている。	転写・翻訳のしくみを理解させる。
思考・判断・表現	遺伝子の発現のその原理と有用性について考察することができる。	遺伝子の発現について考えることができる。	遺伝子が発現するとはどのようなことか考えさせる。

第2学年25R 理科（地学基礎）学習指導案

日時 令和元年9月27日（金）5校時

対象 25R（商業科）30名

教科書 啓林館 改訂版地学基礎

授業者 加藤 祐毅

1 単元名 第2部 移り変わる地球 第1章 地球史の読み方 第2節 地層と地質構造

2 単元の目標および生徒の見方・考え方

(1) 単元目標

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	観察・実験の技能	知識・理解
日常生活や社会との関連を図りながら、地層と地質構造について関心をもち、意欲的に探究しようとするとともに、地質学的な事象を一連の時間の流れの中でとらえるなど、科学的な見方や考え方を身につけている。	地層と地質構造に関する事物・現象の中に問題を見だし、探究する過程を通して、地質学的な事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。	地層と地質構造に関する観察、実験などを行い、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、地質学的な事象を科学的に探究する技能を身に付けている。	地層と地質構造について、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。

(2) 生徒に求める「見方・考え方」と目指す生徒の姿

- ①地質構造に着目し、大地の変動と関連づけて考えること。また、その関連を説明する生徒の姿。
- ②地質の重なりについて、時間の経過と関連させて考えられること。
- ③地球表層について、移り変わり循環する動的なものと考えられること。

3 単元と生徒

(1) 生徒について

25Rは2年商業科のクラスであり、男子9名、女子21名の30名である。全体的に静かで落ち着いたクラスである。真面目であり、決められた作業等は丁寧に行えるが、理科的な知識をもとに根拠を挙げて論理的に説明する力が不足している。教師が指名をすると発言するが、自ら進んでの挙手や発言は少ない。グループやペアで話し合い、意見交換をする場面を設定し、主体的・対話的な学習を促す工夫をしている。

(2) 単元について

本単元は、第2部 移り変わる地球 第1章 地球史の読み方 第2節 地層と堆積構造である。地層と堆積構造、不整合、褶曲と断層、変成岩、岩石サイクルの内容を含み、地層の読み方からはじめ、変動を受けた構造を学習し、最後には造山帯における地球表層のダイナミクスへと展開する。なお、次の単元では、地層中の化石が語る生命史へとつながる展開である。

4 本校の研究主題との関わり

研究主題	生涯にわたって学び続ける意欲と力を育む ～課題解決指向型学習「大曲高校スタンダード」を通じて～
------	--

生涯にわたって学び続ける原動力は、個人がもつ問いである。誰もが関心を持つ「宇宙の中の人間存在」について地学基礎という科目の枠の中で問い続け、学問的な解答を探し続けることは、生徒自身の、宇宙観や生命観につながると考え、地学基礎を貫く重要なテーマとしている。本単元は、地層や岩石を題材としているが、宇宙のダイナミクスの一部であることに気づかせたい。

5 指導計画

- | | |
|---------------------|----------|
| (1) 地層と地質構造 | (2時間) |
| (2) 不整合 | (1時間) |
| (3) 変成岩とその形成・岩石サイクル | (1時間) 本時 |
| (4) 岩石サイクル・演習 | (1時間) |

6 本時の学習

(1) ねらい 変成岩とその形成過程である変成作用を理解する。また、その過程を岩石サイクルや他の物質も含めた物質循環の一部として捉えられる。

(2) 学習過程 A：関心・意欲・態度 B：思考・判断・表現 C：観察・実験の技能 D：知識・理解

	学習活動	指導上の留意点	評価の観点
導入 10分	<p>変成岩はどこからきて、どこへゆくのか？ ～変成岩をダイナミクスの中で理解する～</p> <p>1 変成作用と変成岩 岩石が高温・高圧のもとで再結晶する過程を、具体例を参考にして理解する。</p> <p>(スライド1)</p>	<p>固体のまま変化する過程について、具体例をあげて理解を深めさせる。</p> <p>(スライド1)</p>	<p>発問に対する応答内容(D)</p>
展開 35分	<p>2 広域変成作用 広域変成岩の種類・特徴を理解し、形成場を考える。</p> <p>①岩石標本の観察と形成場の予想</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content;"> <p>問い 広域変成岩(高温型)(高圧型)の形成場所はそれぞれどこか。</p> </div> <p>②まとめ</p> <p>3 接触変成作用 接触変成岩の種類・特徴を理解し、形成場を考える</p> <p>①岩石標本の観察と形成場の予想</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content;"> <p>問い 接触変成岩の形成場所はどこか。</p> </div> <p>②まとめ</p> <p>4 広域変成岩と接触変成岩のスケール 露頭スライドを通してスケールを理解する。</p> <p>(スライド2)</p>	<p>岩石標本から形成場を考え、協議し予想させる。必要に応じ生成条件などのヒントを与える。</p> <p>岩石標本から形成場を考え、予想させる。必要に応じ生成条件などのヒントを与える。</p> <p>スライドを通して露頭のスケールを理解させる。</p> <p>(スライド2)</p>	<p>発問に対する協議・発表の内容で評価(B)(D)</p> <p>発問に対する応答内容で評価(B)</p>
まとめ 5分	<p>5 本時の内容についてのまとめ</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content;"> <p>問い ダイヤモンドを構成する炭素 C はどこからきたか。</p> </div>	<p>造山帯のダイナミクスの中に岩石サイクル・物質循環があることに気づかせる。</p>	<p>発問に対する応答内容(D)</p>

7 本時の評価

評価項目	評価の観点		努力を要する生徒への支援
	十分満足できる	おおむね満足できる	
思考・判断・表現	発問に対して、話し合いを主導しつつ、根拠をもって考えを述べることができる。	発問に対して、話し合いに主体的に参加し、考えを述べることができる。	話し合いへの参加を促し、他者の意見を参考にさせつつ、解答に向かえるよう支援する。
知識・理解	再結晶、マグマだまり、プレート運動、生物を構成する炭素 C についての知識を、課題解決のために活用できる。	再結晶、マグマだまり、プレート運動、生物を構成する炭素 C についての知識を持っている。	地球の内部構造等よりヒントを与え、理解を支援する。

本時は、水の循環、恒星の一生などととも「物質循環」「ダイナミクス」という横断的側面をもつ。授業進度が進むにつれて、宇宙の「物質循環」「ダイナミクス」の中で自分や生命を捉えることができるようになってくると、生徒の表情・意欲・態度が変化する。これは、(主観的ではあるが)本時を含む授業全体を通しての重要な評価要素となっている。

研究授業 教科別協議会の記録

実施日	9月27日(金)	科目・単元	地学・移り変わる地球
主題(題材)	第1章 地球史の読み方 第2節 地層と地質構造		
授業参観者 研究協議会 参加者	丹 啓記(指導主事) 田畑恵子(英語) 加藤祐毅(理科・授業者) 齊藤康娘(理科) 津谷勝之(英語) 佐々木優子(商業) 門脇 徹(理科) 藤田綾子(理科) 照井幹夫(理科) 佐藤賢輝(理科) 佐藤 均(理科)		敬称略
<p>1 授業者の反省・感想</p> <p>変成岩は一般的にはなじみの薄い題材だが、地層や岩石の中で一番ダイナミックな要素を持つ。商業科の生徒は大きなスケールの問いに仮説を立てるのが苦手なので、5つの選択肢を与えクイズ的な要素を取り入れた。理型の授業であれば数値からのアプローチもできる。普段から話し合いを行わせているが、レベルの高い話しにならず終わってしまうこともあるので、パワーポイントを活用しているが、そればかりだとノートを書かなくなってしまうのでバランスを考えた。最後で「まとめ」や「振り返り」を行うか検討したが、図を書くことでしっかりと印象づけ、まとめよりも強いものを与えたいと考えた。</p> <p>学び続ける意欲を持たせられるように、宇宙の中での存在やつながりに関心を持たせるよう心がけている。</p> <p>2 参観者の感想等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分が生徒になった気分で受けることができた。答えやすい質問の工夫がなされ、発表内容をしっかりと受け止めていた。実物を手にとって行えるのはイメージしやすい。先生自身が楽しいと伝わる授業であった。 ・よく練られた内容で、全部後からつながって活躍していた。狙いがあったのプロセスであることがよくわかった。班によって違う答えが出て、周りを気にせずしっかりと理由を述べる場面があった。楽しく学ぶと成績もアップすると感じた。 ・生徒から楽しかったという感想が挙がっていた。50分フルに「聞く」「話す」「見る」などの張り張りのある授業であった。物事の根拠を大切にしている、心がいきいきする授業であった。 ・先生の知識量があって成り立つ授業であるといえる。身近でない題材であるが少しヒントを与えることで正解に導く様子が良かった。地図で捉えスケールの差を体感することができた。 <p>3 指導助言 丹 啓記 指導主事</p> <p>一ヶ月前課題である魅力的な主発問にあるように「岩石はどこへ行くのか？」というタイトルや「固体から固体に変化するとは」と問いかける場面は興味がわく問いかけで良かった。様々な活動を通して、言われなくてもやるという主体性を身に付けるには、先生が訴え続ける必要があり、その指導がよく感じられる授業であった。例えば、班活動に移る際も手際よく役割を決めていて日頃の指導が伝わってきた。1回目の訪問より、生徒の声が大きくなっていて表現力の伸長を感じた。</p> <p>アクティブラーニングの次の段階である、順序立てられた中で学ぶから「裏切り」がある活動も今回見られた。大半の生徒が不正解であると答えたものが正解となるクイズが、今回それに当たるが、そうした驚きが新発見につながる場合がある。</p> <p>今回、あえてイメージを大切に「振り返り」の時間がなかったが、学習内容の定着や思考の深化を促す振り返りはラスト5分に行くことが重要である。稲井達也の著書に「学習の適切な自己の学びの変容を自ら感じることができる」とある。知らなかった事を知った・学びへの取り組みが変わったなどのメタ認知が必要である。毎時間でなくとも、単元ことなどに行っても良い。</p>			

第1学年 保健体育科(体育) 学習指導案

日 時 令和元年11月23日(土)
① 9:30~10:20
対 象 16R(商業科)34名
授業者 竹村 紀子

1 単元名 F. 武道 なぎなた

2 単元目標及び生徒に働かせたい主な「見方・考え方」

(1) 単元目標(育成を目指す資質・能力)

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
技を高め勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、伝統的な考え方、技の名称や見取り稽古の仕方、体力の高め方などを理解するとともに、基本動作や基本となる技を用いて攻防を展開することができるようにする。	攻防などの自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えることができるようにする。	武道に自主的に取り組むとともに、相手を尊重し、伝統的な行動の仕方を大切にしようとする、自己の責任を果たそうとする、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとするなどや健康・安全を確保することができるようにする。

(2) 生徒に働かせたい主な「見方・考え方」と目指す生徒の姿

相手を尊重し、伝統的な行動の仕方を大切にすることによって、武道の価値を高め人間形成に役立つことに関連づけて考えること



用具の取り扱いに気を配り、礼儀作法などの所作を大切にしようとする姿

3 単元と生徒

(1) 生徒について

男子16名、女子18名計34名の商業科である。クラスの9割以上が中学校で運動部を経験しており、普段の体育の授業において意欲的に取り組む姿勢が見受けられる。中学校時代に柔道の授業を経験しているため礼法等の基礎はできているため、用具を大切にすることや相手を尊重する心を育てたい。

(2) 単元について

武道は、武技、武術などから発生した我が国固有の文化である。相手の動きに応じて基本動作や基本となる技を身につけ、攻撃したり技を防御したりすることによって、勝敗を競い合い互いに高め合う楽しさや喜びを味わうことができる。なぎなたは、左右対称の動作や持ちかえ操作が特徴であるため、技が使える喜びを味わうとともに、礼儀作用や伝統的な行動の仕方を学び、相手を尊重する心を育て、日常生活の中で活かす習慣を身に付けさせたい。

4 本校の研修主題との関わり

研究主題	生涯にわたって学び続ける意欲と力を育む ～課題解決志向型学習「大曲高校スタンダード」を通じて～
------	--

「学び続ける意欲と力を育む」ことを図る授業改善の視点

- 主体的・対話的学びを通じて、主体的で協動的な態度で課題を追求する力を育む。
- 対人で行うことから、他者を尊重する心を育て、日常生活の中で活かす態度を育む。

5 指導計画 [12時間]

- | | |
|-------------------------|-------------|
| (1) オリエンテーション・礼儀作法・基本動作 | 2時間 |
| (2) 基本打突・応じ | 3時間 |
| (3) 打ち返し(打ち、応じ) | 4時間 |
| (4) 発表会 | 1時間 |
| (5) 競技会 | 2時間 (本時2/2) |

6 本時の学習

- (1) ねらい 競技会を成功に導くには、係内だけでなく係間の連携を取ったり、協力したりする関わり方を見つけることができる。

(2) 学習過程

A：知識・技能 B：思考・判断・表現 C：主体的に学習に取り組む態度

段階時間	学習活動	指導上の留意点	評価の観点
導入 (5)	<ul style="list-style-type: none"> ・挨拶 ・本時の目標、学習内容を確認する 	<ul style="list-style-type: none"> ・正座の仕方を確認 ・礼法の確認 	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> 学習課題：グループ内やグループ間で協力して競技会を成功させるための関わり方を見つけよう。 </div>			
展開 (40)	<ul style="list-style-type: none"> ・競技会の概要を理解する。 ・競技会の「成功」とは何か話し合い成功させるにはどのようにすれば良いのか話し合う。 ・他のグループの意見を共有し、競技会を「成功」させるための役割分担を決める。 ・体操、練習、競技会準備 	<ul style="list-style-type: none"> ・競技者、審判員、競技役員などの役割があることを理解させる。 ・試合ごとに役割を変えても良いことを理解させる。 ・「成功」の概念は立場によって変わることを理解させる。 ・各グループの意見を持ち寄り、成功させるための意見を共有させる。その時に今回の競技は運営者の視点での「成功」を考えさせる。 ・競技会を進める上で必要な役割分担をグループ間で相談させ決定させる。 ・審判の判定の基準を周知徹底させる。 ・練習する場所や準備を行う場所を指定し安全に留意させ進めさせる。 	

	・ 競技会	<ul style="list-style-type: none"> ・ 遅くても授業終わり 25 分前には競技会を開始させる。 ・ 2コート展開で5グループずつに別れ行わせる。 ・ 審判員は3名で、自分のグループが試合の時は審判しないように注意させる。 	
まとめ (5)	・ 成功かどうか評価する	・ 学習カードに記入させる	成功させるための関わり方を見つけることができる。 (B. 学習カード)

7 本時の評価

評価項目	評価の視点 (評価規準)		努力を要する生徒への支援
	十分満足できる (A)	おおむね満足できる (B)	
思考・判断・表現	決められたルールの中で、予定された時間内に競技会が終了できるように試合間の時間を短縮する工夫ができる	決められたルールの中で、自分の役割を理解し、役員交代や試合の準備など次の行動がスムーズにできる。	協力し合う大切さを全体に指導し、つまづいている生徒に周囲が支援する雰囲気を作るように促す。

第1学年13R 芸術科（書道I） 学習指導案

日時 令和元年11月23日（土）
② 10:50～11:40
対象 13R（普通科）12名
教科書 光村図書 書I
授業者 竹村 美範

1 単元名 「行書の学習」 風信帖の鑑賞と臨書

2 単元目標及び生徒に働かせたい主な「見方・考え方」

(1) 単元目標（育成を目指す資質・能力）

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
書き初め展に出品することにより、書の伝統と文化に興味を持つ。また、今まで学習した行書の基本的な用筆を応用する。	行書の学習での臨書を通して「風信帖」の線質や点画の特徴を理解し、それを表現するための用筆・運筆の技法を習得する。	行書の伝統と文化に関心を持ち、行書の表現や鑑賞の創造的活動に主体的に取り組む。

(2) 生徒に働かせる主な「見方・考え方」と目指す生徒の姿

- ・行書を楷書と比較し、点画の丸み、連続・省略などの特徴を理解する。
- ・行書の成立過程及び字形や用筆の特徴について、主体的に確認する。



- ・日本の伝統である書き初めについて理解を深め、書き初め展に出品する作品に取り組む。

3 単元と生徒

(1) 生徒について

学習に対して真摯に取り組むクラスである。硬筆や毛筆の学習に興味関心がある生徒が多く、向上心も旺盛である。中学校で行書は学習することになっているが、その習熟に時間がかかるためなかなか学習が進まない。そこで、中学校での学習をさらに発展させる。

(2) 単元について

行書は「読みやすい」「速く書くことができる」ため、日常的に使われる書体である。高校生で行書の書き方の基本を身に付けることは、今後の人生において行書が身近な存在となる。そして、古来から我が国における手紙文の役割と、書の日常性と芸術性を理解するためには風信帖は最適な古典である。また、書き初め展への出品は学習意欲を高めるとともに、我が国の「書き初め」という伝統と文化を理解することにつながる学習計画と考える。

4 本校の研究主題との関わり

研究主題 生涯にわたって学び続ける意欲と力を育む
～課題解決志向型学習「大曲高校スタンダード」を通じて～

○行書は日常的に使われる書体である。行書の用筆・運筆の技法を習得して、風信帖の卒意の書ならでの多様な書きぶりを理解し今後の日常生活に応用する。

5 指導計画 [7時間]

- (1) 風信帖と空海 (1時間)
 (2) 風信帖の鑑賞と臨書 (6時間) (本時 5/6)

6 本時の学習

(1) ねらい

「一字一筆」筆脈がとぎれないように、臨書する文字を観察し筆脈と抑揚、それに伴う点画の丸み、連続や省略、筆順の変化を確認する。

(2) 学習過程

A：知識・技能 B：思考・判断・表現 C：主体的に学習に取り組む態度

段階時間	学習活動	指導上の留意点	評価の観点
導入 5分	本時の学習目標を確認する。	チェックリストで今までの学習を振り返る。	意欲的に取り組もうとしているか。(C)
	学習課題：一字一筆。筆脈を切らないためにはどのように書くか。		
展開 35分	点画の連続性と曲線を観察する。	iPadでの学習の実際を観察し追体験できるようゆっくりと範書する。	古典の活用方法が理解できたか。 (A・C)
	<p>■ 使用する機材</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ iPadとプロジェクターを使い揮毫の様子を観察する。 		
	範書をもとにして臨書する。	点画の連続性を意識する。	細部まで気配りができたか。(B・C)
まとめ 10分	学習を振り返り、チェックリストに記入して自己評価をする。		

7 本時の評価

評価項目	評価の視点 (評価規準)		努力を要する生徒への支援
	十分満足できる(A)	おおむね満足できる(B)	
知識・技能	点画のつながりを意識して、筆脈を通して書いている。	次の画へ連続させるように運筆している。	始筆の形に注目し、なぜその形になるのか観察する。
思考・判断・表現	古典と自分の作品を比較して、古典の筆意を細部まで観察する。	うまくできた部分とできなかった部分を、古典と比較して分析している。	終筆部分がどこへ向かっているかを観察する。

第3学年35R 英語科（コミュニケーション英語Ⅲ） 学習指導案

日 時 令和元年11月23日（土）
 ② 10:50～11:40
 対 象 35R商業科33名
 教科書 啓林館 Skillful English Communication Ⅲ
 授業者 三浦 俊太郎

1 単元名 Leeson 9 “Buy and Buy! (買いまくれ!)”

2 単元目標及び生徒に働かせたい主な「見方・考え方」

(1) 単元目標（育成を目指す資質・能力）

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
今日の消費社会と経済についての文章を読み取る読解能力を育む。	題材に関連する英文を聞き取る／題材に関連する文章を作って話し合う。	主体的に関わり、様々な意見を取り込み、多角的に物事を見ようとする態度を養う。

(2) 生徒に働かせたい主な「見方・考え方」と目指す生徒の姿

教科書の英文を読み解き、自分自身の消費行動と関連づけて考えること



教科書の筆者の意見を多角的に考察し、自分独自の意見を論ずる姿

3 単元と生徒

(1) 生徒について

商業科の進路多様クラスの生徒である。英語外部試験（GTEC）のデータを検証すると、生徒達の英語を読む力・書く力は備わってきているが、即興で話す力はまだ不十分である。

(2) 単元について

「導入」で新しいがゆえに製品を買い換えると述べ、「序論」でそうした購買動機を当て込んで製品の旧式化が仕組まれている（つまり次々と新製品が投入される）という主題が述べられる。「本論」で流行の変化のスピードや買い換えの功罪について考察され、「結論」で買い換える前に再考してみようという主張が述べられる。これまでに培った英語を読む力・書く力を駆使して論理的意見を述べ、さらに相手の意見に応答する即興的な話す力を育む活動につなげたい。

4 本校の研究主題との関わり

研究主題 生涯にわたって学び続ける意欲と力を育む
 ～課題解決志向型学習「大曲高校スタンダード」を通じて～

「学び続ける意欲と力を育む」ことを図る授業改善の視点

- 今学習している内容と実生活との関連性を意識し、題材の Personalization を心がけて授業を構成する。
- Feasibility と Sustainability を最優先し、常に同等またはそれ以上の質の授業内容を提供できるように心がけ、生徒の生涯学習のベースになる授業に安定性を持たせる。

5 指導計画 [5時間]

- (1) paragraph 1, 2 (トピックセンテンスやディスコースマーカーに着目した内容把握) (1時間)
- (2) paragraph 3, 4 (トピックセンテンスやディスコースマーカーに着目した内容把握) (1時間)
- (3) paragraph 5, 6, 7 (トピックセンテンスやディスコースマーカーに着目した内容把握) (1時間)
- (4) 「買い換えの功罪」についてのディベート (2時間) (本時1/2)

6 本時の学習

(1) ねらい

「買い替えの功罪」について意見交換をし、多角的に本課の内容について考察できる。

(2) 学習過程

A : 知識・技能 B : 思考・判断・表現 C : 主体的に学習に取り組む態度

段階時間	学習活動	指導上の留意点	評価の観点
導入・活動準備 15分	<p>本時の目標を掲示する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>学習課題</p> <p>新製品を買い続ける、売り続けることは良いことなのだろうか。 消費者側・生産者側両者の視点から考えてみよう。</p> </div> <p>活動①ディベートの準備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・賛成派 (Government)、反対派 (Opposition)、審判 (Judge) に分かれ、準備をする。(10分) ・Peer-editing 	<ul style="list-style-type: none"> ・与えられたテーマについて賛成・反対に分かれ、各人が意見を考え英作文する。 ・グループを作り、各人が作成した英文を回覧し、相手側に伝わりやすい英文になるように添削しあう。授業後に出来た英文を教員に提出し、添削を受ける。 	
展開 25分	<p>活動②ディベート</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各チームが賛成意見、反対意見を言い合う。 ・Intermissionの時間に相手側の主張を箇条書きでまとめる。(25分) 	<ul style="list-style-type: none"> ・Parliamentary style debatingのルールを確認する ・生徒が英語化できない表現を拾い上げ、クラスに共有する。 ・活動の様子を観察し、必要に応じてアイディアのヒントを与える。 ・既知の単語や表現を使って説明するよう促す。 	B C
まとめ 10分	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の振り返りをする。特に相手チームの意見で説得力があった意見を英語でまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・相手側の主張で、反論するのが最も難しく感じた意見についてチームで議論させる。次時に全体で共有する。 	

7 本時の評価

評価項目	評価の視点 (評価基準)		努力を要する生徒への支援
	十分満足できる (A)	おおむね満足できる (B)	
主体的に学習に取り組む態度	正しい英文を作成した上で不自然な内容を正しい英語へと訂正できる。	英文を作成でき、仲間の意見を尊重し、不自然な内容を指摘できる。	授業後にワークシートを添削し生徒の正確な英語力を育む。
思考・判断・表現	相手の意見を理解した上で的確な反論が出来る。	相手の意見を理解した上で、仲間の協力のもとに的確な反論が出来る。	反論のトレーニングを繰り返し、即興的反駁の力を育む。

「英語表現Ⅰ」学習指導案

実施日時：令和元年9月6日（金）3 校時
場 所：11R教室
対 象：11R32名（男子15女子17）
授 業 者：ヘイリー・ガーラック 近江 豊
教 科 書：Vision Quest English Expression I
Advanced（啓林館）

1 単元名： Lesson 5 Can you help me with this plate?

2 単元の目標：

- (1) 日本語化した英単語を、英語として正しく発音できる。
- (2) 法助動詞のそれぞれの意味や用法を学び、適切に使い分けて話者の気持ちや判断を表すことが出来る。

3 単元とCAN-DO形式での学習到達目標との関連：（1年の箇所を参照）

- ・身近な話題について、簡単な表現を使って質疑応答が出来る。
【2学期 話すこと（やりとり）】
- ・読んだり聞いたりした話題について、賛否や簡単な感想を述べる事が出来る。
【2学期 話すこと（発表）】
- ・与えられた英文を利用して、自分の考えを書くことが出来る。
【2学期 書くこと】

4 単元観：

英語は、補助動詞を使いこなせなければ、極めて「粗雑」（いわゆるピジン英語）になってしまう。補助動詞の用法に習熟しておくことが重要なのは、そのためである。

本単元は、補助動詞の中でも法助動詞を扱っている。前半部分（P.40の半ばまで）は、中学校の既習事項が多いが、それ以降は高校生になって初めて扱うものが多い。

この単元の学習では、主に次の3点が学習上の「注意点」になると考える。

- (1) 法助動詞の過去形がただちに過去の「内容」を意味するものと、誤解しやすい。
- (2) 推量・可能性を表す法助動詞が「過去の文脈」で使われるとき、「法助動詞＋完了形」の形をとることがわかりにくい。
- (3) 肯定文・疑問文では法助動詞は通常強く発音されないが、発話時に不自然に強調してしまう。

5 生徒観：

英語学習に対して意欲的に取り組む生徒が多数だが、活動全体には積極的であっても書き表すときには文法理解の浅さを示すことも多い。それゆえ、表現したいことを実際に話し書く場面を多く作りながら、同時に「正確さ」を意識させる授業を心がけたい。また、少人数（32名）の環境を、最大限に活用したい。

6 単元計画（総時間6時間） LESSON 5

- 1・2時間目・・・Model Conversation, Pronunciation, Function, Build-Up 1 Practice 1
- 3・4時間目・・・Build-Up 2 Practice 2
- 5時間目・・・Build-Up 3
- 6時間目・・・Practice 3 総復習、応用問題 [本時 6/6]

7 単元の評価規準

A コミュニケーションへの関心・意欲・態度	B 外国語表現の能力	C 外国語理解の能力	D 言語や文化についての知識・理解
積極的に話そうとしている。	情報をまとめて、相手に伝えることができる。	相手の発話を正確に理解・把握できる。	法助動詞が使われる状況を理解している。

8 本時の学習

(1) 目標

- ・相手に過去の反省を尋ね、それを紹介する文を完成させ、発表することができる。
- ・それぞれの法助動詞が使用される文脈を理解し、適切に運用できる。

(2) 指導計画

過程	学習活動	指導上の留意点	評価
導入 6分	Quick Check for Review : 「復習プリント」に取り組み、理解度を確認する。	生徒の理解度を確認する。 生徒各自に理解不足の箇所を確認させ、「展開」での活動に活かさせる。	D
展開 40分	<p>Exercise : 「反省」が残る出来事について各自の情報を交換して収集し、発表する。Worksheet を利用する。</p> <p>1. Individual Work [5 minutes] : 過去の一時点を振り返り、反省点や今後の抱負等を、英語で記述する。 (Warm-up の実施は Time management 次第。)</p> <p>2. Check by JTL/ALT [10-15 minutes] : 各自 JTL / ALT のチェックを受ける。チェックをクリアして時間が余った生徒は 1. を続ける。</p> <p>3. Interview [10-15 minutes] : 生徒どうしが英語でインタビューして、リストに情報を書き込む。</p> <p>4. Pair Work [5 minutes] : 印象的な情報提供者を各ペアで話し合い、決定する。</p> <p>5. Presentation [5 minutes] : 数名による口頭発表。 (5. の実施は Time management 次第。)</p>	<p>「進め方」の理解を徹底させる。</p> <p>1. 取り混ぜる内容の難易度を適切なレベルに設定し、指示を明確にする。 (例 : 「should have p.p.」の使用) (Warm-up の実施は Time management 次第。)</p> <p>2. 紙を見ずに JTL/ALT の前で正しく自然な発話をするように、指示を徹底する。 (発音・リズム・アクセント等)</p> <p>3. インタビュー時に、お互いが正しく聞き取り記録しているかを確認する。情報交換時のペーパーの見せ合いは不可であることを徹底する。 (2.3. トータルで 2 5 分に収める。)</p> <p>4. 学習者の「日本語使用」をどこまで認めるかについて、状況を把握して対応する。</p> <p>5. 発表時のペーパー使用は、原則不可とする。 ALT が発表を聞いて、理解できるかを確認する。 (5. の実施は、Time management 次第。)</p>	A B C
まとめ 4分	<p>・本時を振り返る</p> <p>Individual Work: 1.3.4. について各自が書いたものを refine (修正) し、完成させて提出する。 (あるいは、宿題とする。)</p>	<p>「活動」によって「理解・学び」があったかを確認する。</p> <p>「正確さ accuracy」の重要性を生徒が理解したかを確認する。</p>	D

研究授業 教科別協議会の記録

実施日	9日6日(金)	科目・単元	英語表現 I (近江・Hayley)
主題(題材)	英語表現 I Lesson 4 Can you help me with this plate?		
授業、研究会 参観者	高校教育課 小林 誠 指導主事 本校英語科職員 (田畑、近江、津谷、田村、Hayley、小松)		
<p>1. 授業者の感想・反省</p> <p>Hayley 生徒たちが、たくさん英語を使おうとがんばっていた様子を見られてうれしかった。指示を理解したり英文を書いたりするのに苦労していた生徒もいたが、生徒たちが授業を通して成長していくのを感じることができた。</p> <p>近江 先週違う題材で同じような活動を行ったが、その時と比べると、授業の流れや指示に対する生徒たちの慣れもあり、だいぶ今日はよくやっていたと思う。</p> <p>2. 参観者の感想・意見</p> <p>津谷 should have p.p.～という難しい題材ではあったが、「後悔する」という場面でこの表現を使うということが理解できていた。最初に練習してそのあと実際に使ってみることで、定着に繋がったと思う。先生が生徒の英語を一人一人チェックしている間、終わった人たちが時間をもてあまさないように次の指示がきちんとあったところがとても良かった。いっぱい書いたり練習したり話したりと、生徒が英語を使う場面がたくさんあった。文法やスペルなど、一度に全てをチェックするのは難しいので、活動させるときは活動に焦点を当てると、生徒も充実感が持てていいのかと思う。1年生は比較的クラスサイズが小さいが、それでも全員を活動させるのは大変だと思う。プリントにイラストがたくさんあったが、2つだけでなく、他のイラストも使えばもっと他の活動ができたと思う。</p> <p>田畑 今回の題材を、こうやったら生徒に印象づけられるのかと、とても参考になる授業だった。学んだ形を、自分のこととして表現するのがとても大事だと思うので、こういったところを1年生のうちから徹底させれば、次に繋がっていくと感じた。生徒の書いたものをしっかりとチェックできていたところも良かった。</p> <p>小松 細かい指示ではあるが、口頭でのやり取りの時は自分のプリントを相手に見せないとか、自分の英文の間違いを消さずに残しておくなど、しっかりと徹底させていてとても参考になった。授業がパワフルでテンポも良く、生徒たちもそれに必死でついて行こうとしていた。</p> <p>田村 指示等、もっとヘイリー先生に話してもらってもよかったのでは。近江先生が英語で話した後、日本語でも付け足してしまうのがもったいないと思った。今回は活動が多かったためテンポも速く進んだが、それについていけない生徒もいた。“I’m sorry I scolded my son so strictly.”の例文のところで、“I’m sorry”が後悔を表すというところにもっと注目させたら、should have been に結びつきやすかったかと思う。また、プリントの指示も英語で書かれていたため、自分が今何をやるのかわかっていない生徒もいた。英語が苦手な生徒のためにも、プリントをもう少しわかりやすくする必要があったのではないか。授業の途中で生徒が書いたものを JTE と ALT が二人でチェックしたのはいいアイデアだと思った。</p>			

3. 指導助言 小林指導主事

授業に集中し、必死について行こうとしている生徒の姿を見ることができた。JTE と ALT の連携ができていると、生徒のモチベーションも上がる。生徒が英語を話すときの大きな障害となっているのが、自信のなさである。実際に ALT とのやりとりを通して、生徒の英語の能力を伸ばすとともに、自信もつけさせていってほしい。

【今日の授業に関して】

- ・授業の初めのところで、生徒が間違いやすい点を事前に説明してあげたことはとても効果的である。生徒が自分で自分の間違いを修正する力もつく。
- ・インタビューの前に、リハーサルの時間を取ってあげた点がよかった。みんなの前で発表させるときは、リハーサルの時間を確保してあげるべきである。
- ・生徒に英文を作らせるとき、1文ではなく、複数書かせてもよかったのでは。時間がかかるとすれば、書く前に口頭で先生に説明し、修正してもらい、その後戻って書くという方法にすると、時間の節約になる。

【新指導要領に関して】

- ・外国語の知識や習得は、語彙や文法といった個別の学習ではなく、繰り返したり、考えたり、判断したり、説明したりなど、実際のコミュニケーションを通して獲得されるべきである。
- ・語彙や文法の学習に関しては、適切な場面設定が必要である。授業の計画を立てるときには、真にコミュニカティブな場面設定をしてほしい。授業の中で何ができるか、どのようにデモンストレーションするか、どのように生徒とやりとりをするか、どう生徒にフィードバックするか、常に考えて授業の計画を立ててほしい。

【その他】

- ・10/24(木) TOEIC を実施する。先生方も外部試験を受けてほしい。
- ・大学共通テストの外部試験については、英検の予約申込がもうすぐ始まる。情報が少ないが、子供たちの不利益にならないように先生方もこまめにチェックしてほしい。

第1学年11R 家庭科（家庭基礎）学習指導案

日 時 令和元年11月23日（土）

① 9:30～10:20

対 象 11R（普通科）32名

教科書 東京書籍 家庭基礎

授業者 小澤 裕子

1 単元名 第8章 経済生活を営む

2 単元目標及び生徒に働かせたい主な「見方・考え方」

（1）単元目標（育成を目指す資質・能力）

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
消費生活の現状と課題を認識し、消費行動における意思決定や契約の重要性、消費者保護の仕組み、消費者の権利や責任、消費生活と社会・環境とのかかわりについて理解する。	自立した消費者として、生活情報を活用し、適切な意思決定に基づいて行動することや責任ある消費について、考察する。	よりよい社会の構築に向けて、消費生活や消費行動についての課題に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりし、自分や家族、地域の生活の充実向上を図ろうとする。

（2）生徒に働かせたい主な「見方・考え方」と目指す生徒の姿

消費者一人一人の生活を、持続可能な社会の構築の視点から捉え、自立した消費者としての消費行動と、意思決定の重要性を考える。



消費者市民社会の担い手として、責任ある消費行動に移そうとする姿

3 単元と生徒

（1）生徒について

第1学年の普通科の男子が15名、女子が17名の合計32名のクラスで、積極的に発表する生徒は少なく、また自分の考えを整理して表現することが苦手な生徒も多い。しかし、レポートや授業での振り返りカードからは、自分の生活を振り返り、課題を見つけ、その課題解決に向けて取り組もうとする姿勢が見受けられる。

（2）単元について

生活と環境の関わりや持続可能な消費について理解することで、消費者市民社会の担い手として、一人一人の消費行動に自覚をもち、責任ある消費について考察し、工夫できるようにする。また、近年の消費者問題や消費者の権利と責任について理解し、自立した消費者として、適切な意思決定に基づいて行動できる実践的な態度を身に付けさせる。

4 本校の研究主題との関わり

研究主題 生涯にわたって学び続ける意欲と力を育む
～課題解決志向型学習「大曲高校スタンダード」を通じて～

「学び続ける意欲と力を育む」ことを図る授業改善の視点

- 社会の変化に対応した題材を取り上げ、生活上の知識・技能を生涯の生活設計やキャリアプランニングなどと関連付けて捉えることができるような授業展開を図る。
- 生涯を見通して生活の課題を解決することができる力の育成を図り、他者と協働したり、他者との会話を通して自分の考えを明確にしたり、考えを深めたりする学習活動を充実させる。

5 指導計画 [7時間]

- (1) 職業生活を設定する 1時間 (2) 計画的に使う 1時間
 (3) 国民経済・国際経済と家庭の経済生活 1時間 (4) 現代の消費生活 1時間
 (5) 消費者の権利と責任 1時間

(6) これからの消費生活と環境 2時間 (本時6/7時間)

6 本時の学習 (6/7)

(1) ねらい 豊かさ、安価の背景にある資源、環境、経済格差などに気づき、責任ある消費行動とどのようなことか、自分の考えをまとめることができる。

(2) 学習過程 A：知識・技能 B：思考・判断・表現 C：主体的に学習に取り組む態度

段階 時間	学習活動	指導上の留意点	評価の観点
導入	・日ごろの消費行動を確認する。	・事前学習から、自分たちが物を購入する基準を確認する。	
5分	【学習課題】消費行動に関わる多様な視点を踏まえて、責任ある消費行動について考えよう		
展	【学習活動】商品を購入するときの観点をダイヤモンド形ランキングシートを活用し、理由も考える。		
開	・商品購入するときの優先順位をダイヤモンド形ランキングを活用しまとめる。(個人) ・グループで話し合い、意見を黒板に提示する。(グループ→全体)	・商品の購入には、自己の必要性以外の観点があることから、上位、下位にランキングした理由を確認する。 ・いろいろな意見を整理させ、新たな考えを打ち出し、考えが深まるよう助言する。	
35分			
まとめ	・本時の振り返り 責任ある消費行動とはどのようなことか、自分の考えをまとめる。	・学習課題を再確認し、「多様な視点」を踏まえて、自分の考えを根拠を明確にしてまとめるよう、助言する。	・資源、環境、経済格差など、多様な視点から責任ある消費行動について考え、根拠に基づいてまとめている。 ワークシート (B)
10分			

7 本時の評価

評価 項目	評価の視点 (判定規準)		努力を要する生徒への支援
	十分満足できる(A)	おおむね満足できる(B)	
思考・ 判断・ 表現	持続可能な社会を目指すための課題を捉え、消費行動が社会に与える影響から責任ある消費行動について、自分の生活だけではなく、家族、地域の生活と結びつけて考察し、根拠に基づいて表現している。	一人一人の消費行動が社会に与える影響を踏まえて、責任ある消費行動について考え、根拠に基づいてまとめている。	商品購入の際の具体例を提示することで、消費行動における自己の必要性以外の視点に気づかせるようにする。また、グループ活動等を取り入れ、他者の考えを参考に思考が深まるように支援する。

中堅教諭資質向上研修を終えて

数学科 小田嶋 芳和

本県勤務も11年目を迎え、初任者研修から始まり5年経過研修を経てこの中堅教諭資質向上研修をもって経験者研修を終える。初任者の時には想像ができなかった経験者研修だったが、たくさんの人に指導していただき、また支えられ無事終わることができた。これで「終わり」ではなく「ここから」と言う新たな気持ちで来年度以降も研鑽を積んでいきたい。

【選択別研修：株式会社オーリエンス】

選択研修では、株式会社オーリエンスさんのご協力の下、養豚業の体験をさせていただいた。県内の主要産業である農業において、現在の社会情勢の中でどのように経営しているのか、また今後の展望をどう考えているのかを学びたいと思った。また、施設管理や経営上必要な能力について探り、今後の生徒の指導に生かしていきたいと考えた。さらには、農業の中に隠れている数学的な知識や活用についても注目したいと思った。

今年の夏は非常に暑い日が続き、そのような中でも生き物を扱う仕事は気を抜けないことが多く、体力的にも精神的にも大変で、生産者の苦労を肌で感じることもできた3日間であった。今回の研修では、環境への配慮や最新技術の導入など現代の農業の姿を色々と学ぶことができた。これからの生産者には、従来のやり方だけでなく、現代のニーズを敏感に捉える力、必要に応じて最新技術を取り入れる力、地域社会との調整力など様々な能力が求められるということを知ることができた。これからの時代を生きていく生徒たちに必要な能力や資質を身をもって学ぶことができ、進路指導や生徒指導、教科指導など今後の様々な指導の場面でこれらのことを意識しながら指導にあたりたいと思った。

【全体を通して】

この1年間の研修講座を振り返り、私は特に研修の目標にもある「学校運営に参画する意識を高める」という点について印象深く考えさせられた。研修が始まるまでは、私は自身の授業改善や与えられた仕事をしっかり遂行することばかり考えていた。研修計画の段階で、様々な評価項目を基に今の自分に足りていない点を考察したことで、自分は「様々な計画の企画・運営に参画する意識」と「周りの教員に対する指導や助言をする意識」が低かったということが浮き彫りになった。そこで、今年度の研修をとおして、特に「中核教員としての企画・運営」や「周りの教員に対する専門的な指導・助言」についての意識を高めることができたと感じている。

I期の研修では、学校の危機管理に対する意識付け、学校組織マネジメントの視点、学校組織の一員としてリーダーシップを発揮する方法やスキルなどを学んだ。そこで、自分の中核教員として、学校の様々な課題に対する企画・運営にどのような形で関わっていくことができるのかを考えることができた。II期で実施した研修からは、専門的な指導・助言をするためには、指導の根拠となる学習指導要領の内容への深い理解が必要であるということを知ることができた。中でも特に「指導の根拠」という言葉が強く印象に残っており、根拠のない指導をすることがないよう気をつけていきたいと感じた。

これらの研修をとおして学校運営に参画する意識は高まりましたが、それと同時に、運営に参画するにあたって、その責務を十分に果たすためには、自分の知識や経験がまだまだ不足していることに気付かされた。学校運営を担っていく立場として、十分その役割を果たすことができるよう、広い視野をもって自主的に研鑽を積むだけでなく、積極的に校外の研修に参加するなどして、知識と経験を増やしていきたいと思う。

最後に、この研修のためにご尽力いただいた研修先の方々、教職員諸先輩方に感謝申し上げます。

中堅教諭資質向上研修を終えて

三浦 俊太郎

4月から始まった中堅教諭資質向上研修も、早いもので残すところ僅かとなった。これまでの教員生活を振り返ると通常の授業に加え、部活動、研修、担任業務、分掌業務と目の前のことをこなしていくことが精一杯で、本当にあっという間の11年だった。ここで、一部ではあるが、中堅教諭資質向上研修を振り返ってみたいと思う。

【選択別研修：農業】

農業の実態について身をもって知ることができた。大自然を自分の体力をもって相手にし、必死の思いで育てている作物を普段当たり前のように口にしていることを実感させられた。生産者への感謝の気持ちを、体験活動を通じて持つことができた。口で諭されるよりも、実際に体験してみることが効果的であり、このことは日々の授業にも言える。講義型の授業から体験型の授業へのシフトの必要性を感じさせられた。また、農業は体力を要する仕事ではあるが達成感は大い。人と人との協力で成り立っている産業であり、非常にやりがいのある仕事であると感じた。平成30年度高卒生における就農者数はたったの1人であると発表されている。後継者不足が叫ばれているが、農業の素晴らしさを我々の世代がもっと発信していかなければならないと感じている。

【特定課題研究：英語科指導等におけるディベートの活用とその効果】

平成30年3月に高等学校学習指導要領が改訂され、現在移行期間にある。令和4年度から年次進行で新学習指導要領に切り替わり教育課程も変わる。新学習指導要領の外国語解説を読むと、高校一年生が学ぶ「論理・表現Ⅰ」における「話すこと」の指導内容に下記の内容があり、これまで以上に高度な指導内容が求められているのが分かる。

論理・表現Ⅰ (1) 話すこと イ

日常的な話題や社会的な話題について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、多くの支援を活用すれば、ディベートやディスカッションなどの活動を通して、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、基本的な語句や文を用いて、意見や主張などを論理の構成や展開を工夫して話して伝え合うことができるようにする。平成30年3月施行高等学校学習指導要領外国語解説より抜粋

高校一年生段階から即興性の高いディベートなどの活動を取り入れていく必要性があり、いかに効率的にかつSustainability(持続性)とFeasibility(実施可能性)を持たせて高校英語初期段階でディベート活動を運用できるか、その指導法を研究しようと思い立った。11月に行われた学力向上フォーラムを1つのゴールとして設定し、研究成果の発表のような形で公開授業を行った。高校3年生を対象に授業研究を行ったが、論理・表現Ⅰで即活用出来るような形式を意識して活動を行った。下にその(1)成果、(2)課題を記す。

(1) 成果

- ・賛成派、反対派、審判の3役のローテーション化

年度初めにグループを作り、3役をローテーションで交代させて活動した。これにより毎授業で役割分担をスムーズに行えた。

- ・スモールステップ式のパターンプラクティス

英語授業改善事業ディベート拠点校の角館高校での授業や、県教育委員会主催の中・高英語教育研究協議会に参加し、パラメンタリーディベートの型について学び、スモールステップで授業に取り入れた。新教育課程の論理・表現Ⅰは1年生を対象とすることを踏まえ、最初からディベートの流れ全てを活動で行うのではなく、最初は賛成・反対の意見を主張し合う活動、次は主張を言い合った後に相手に1回反論をする、といった段階を設定し少しずつパラメンタリーディベートの型に近づけて行くことが出来た。スモールステップ形式であれば、ディベートの型に慣れさせる帯活動として、1年生の英語発達段階に合わせてレベルを上げて実施していくことが出来ると思う。

- ・授業内でのスマートフォン使用

活動のスピードを上げるために、辞書ではなくスマートフォンのグーグル翻訳機能を活動時に利用させた。これについては賛否両論だと思っていたが、フォーラムの授業アンケートを見ると肯定的な意見が多かった。アンケートの中に、weblioという辞書ソフトが使いやすいとあったので、次の活動から導入したい。

- ・ディベートに対する意識の変容

年度当初は、ディベートに対して取り組みづらい、難易度の高い活動として生徒達は辟易した様子であったが、少しずつ負荷を高めていく活動を通して練習をしたことで、11月のフォーラムでの授業では生徒の表情から自信が感じられた。公開授業当日には、生徒の欠席数が多く（大学受験のため）、急遽審判役をなくし、賛成・反対チームの二役のみでのディベートを行った。ディベートには必ず勝敗をつけなければ生徒は一生懸命にならないと思っていたが、勝敗が無くても生徒達はモチベーションを失うことなく取り組んでくれた。勝敗に拘らず、自分の意見を英語で説得力を持って発表したい、という気持ちを芽生えさせられたことが、本研究における一番の成果である。

(2) 課題

- ・Accuracy（正確性）の評価

英語言語活動にはつきものの課題であるが、生徒の使用英語の正確性の評価法が課題である。即興性の高い活動であるがゆえに、生徒全員が発言した内容をその場で評価することは不可能である。各定期考査で、授業で活動を行ったディベートのテーマを問題として出題し、自由英作文の形で賛成・反対意見を述べさせたが、添削を行えたのは一部であり、いかに正しい英語の使用量を増やせるかが課題である。

【研修全体を通して】

春に研修教員評価の項目を見たとき、到達度が不十分である以前にそのようなことをあまり考えたことがなかったという項目（道德教育の推進など）が多数あり、10年経験者として求められるものと自分の意識とのギャップに戸惑いを感じた。1年間の研修を通して、クラスから学年全体、そして学校全体を見渡して物事を考える機会が何度もあり、広い視野で学校全体を考える意識を持つことができた。

同期の先生方と一緒に集う研修はこの先ない。I期研修の講義で「研修、研究が充実しないと教員としての力量が伸びない。」「継続的な研究・研修システムがなければ、教員は専門職に値しない。」という言葉があった。目の前の生徒に対してただ一生懸命に取り組んでいれば良かったこれまでと違い、広い視野をもって職責を全うできるように自分のできることを精一杯取り組んで、さらなる研鑽を積んでいきたい。

学力向上フォーラムを終えて

研修部

令和元年11月23日(土)、大仙市立大曲小学校、大曲中学校を会場として「令和元年度学力向上フォーラム」が開催された。本校も協力校として参加し、平成29、30年度と2年間に渡り取り組んできた探究活動等実践モデル校事業をさらに発展させる形で公開授業等を行い、秋田県内外から88名の参観者の皆様に来ていただき盛況のうちに終えることができた。

協力校テーマとして、

生涯にわたって学び続ける意欲と力を育む

ー課題解決志向型学習「大曲高校スタンダード」を通じてー

目的・目標は

授業づくりの『大曲高校スタンダード』

- ・主体的・対話的な学びの時間を授業に取り入れると共に、講義のアクティブ化を図る。
 - ・知識・技能の質や量の改善を図ると共に、それらを活用して「主体的」「対話的」な学びを促す
- 授業づくりを推進し、地域・国際社会の課題の解決に向けて活躍できる人材を育成する。

を掲げ、8教科9名の先生方が公開授業を行ってくれた。

どの授業も生徒の活発な学習に取り組む様子をはじめ教師と生徒の普段からの良好なコミュニケーションなしでは行えない充実した授業であった。本校の特色のひとつである商業科の授業であるが、教員がワープロ大会の事務局校としての仕事があり不在となったために公開できなかった。このことが非常に残念であった。

第一体育館では1年生が学校祭(曲高祭)で作成したモザイクアートを、1階中央廊下では2年生が半年をかけて取り組んだ探究活動の成果を、また新聞の記事を利用し自分の感想や意見を述べると共に世の中の出来事に問題意識を持たせるNIEの活動の様子など生徒の活動の一部を紹介する展示スペースを設けた。公開授業の移動の際などに、多くの方々が足を止めて見入ったり、写真を撮るなど興味を持っていただけたものと思う。

当日は、部活動の大会等のために教員・生徒共に不在者が多く、心配な面が多かったが普段からの教員と生徒の関係性や生徒の機敏な行動力に助けられ無事終えることができたことに感謝したいと思う。



研修タイムス

学力向上フォーラム特集1（地歴・数学・国語）



校舎遠景

学力向上フォーラム

令和元年11月23日（土）、大仙市立大曲小学校、大仙市立大曲中学校、本校を会場に「学力向上フォーラム」が開催された。本校は「生涯にわたって学び続ける意欲と力を育む一課題解決志向型学習『大曲高校スタンダード』を通じて」を協力校テーマとして掲げ、国語、地歴公民（世界史B）、数学、理科（生物基礎）、体育、芸術（書道・音楽）、英語、家庭の9科目の授業を公開した。当日は県内外の小中高の先生方、県教育委員会や大仙市議会、秋田大学等からの来賓を含め、参加者数は88名にのぼった。

その他にも1年生のモザイクアートの作品展示、2年生の探究活動の成果、NIE関連で朝学習でおこなっている新聞記事の感想が展示された。



2年生
探究活動
パネル展
示



地歴・数学の前に16名の生徒を集めてスライドを見せて対話の場を創出。

「冷戦が終結した理由を説明してみよう。」

地歴公民科 藤田 理

第3学年33・34R 地理歴史科（世界史B）
第20章 情報革命と世界経済の一体化

学力向上フォーラムで授業を公開するという今回の経験は、新学習指導要領についての理解を深め、新しい学力観に基づく授業のあり方を構築することや、小学校や中学校との連続性を意識しつつ高校の学習指導を行うことの大切さを改めて感じることができ、とても貴重な機会となった。

日常の授業実践においては、「大曲高校スタンダード」に基づいた授業フォーマットを構築しつつ、歴史的事象を多面的・多角的な視点から考察し、概念を用いてその歴史の姿を捉え、それを自ら切り取り、言語で表現できるようになることを心がけている。このような世界史の学習は受動的な学習の仕方だけでは困難であり、「主体的・対話的で深い学び」を通じて実現されていくのではないかと考える。そこで本時の授業では「冷戦の終結」を取り上げ、グローバルな視点から考察し、まとめる活動ができることを目指した。生徒たちの学習活動からは、これまで世界史を担当してきた、この2年間における彼らの成長の大きさを強く感じた。特に「経済のグローバル化」を

中心に据えた冷戦の終結の要因についての発表には、顕著にそれが表れていた。

公開授業では多くの教育関係者の皆様に参観いただき、貴重な助言を受けた。特に「授業者はファシリテーターとして声かけをしており、生徒一人一人がいきいきと学習できていた。」という言葉には大いに勇気づけられた。さらに、これまで互いに授業研究を進め合い、適切な助言をして頂いた校内の諸先生方にも改めて感謝申し上げたい。

参観者の感想（地歴）

- ・自分の考えを他者に表現できるようにワークシートを活用している。
- ・個々の生徒が自分の考えを大切にしている。
- ・生徒の活動を支援するように授業者はファシリテーターとして声かけをしていて、生徒一人一人とてもいきいきしていた。
- ・ICTを活用して、生徒の表現活動の時間を確保できるように工夫していて、とてもよかった。
- ・各人の理解を確認させるのにグループ活動が機能している。（主体的・対話的な活動が深い学びにつながっている）
- ・3つの要因を関連させて理由を考えている生徒がいた。→考察の視点が生かされていた。
- ・授業時間内だけでランキング、理由付けは難易度が高いが、事前の演習の中に、その手がかりが盛り込まれていたのが良かった。（按察）

令和元年12月24日



24R 普通科文系 生物基礎



16R 商業科 なぎなた

学力向上フォーラム特集Ⅱ

英語・理科・体育編

第3学年35R C英語Ⅲ

Lesson 9 "Buy and Buy!(買いまくれ!)"

**新製品を買い続ける、売り続けることは良いことなのだろうか。
消費者側・生産者側両者の視点から考えてみよう。**



英語科 三浦俊太郎

① 付箋のコメントに対する返答

紙辞書（和英辞書）の使用は手間がかかる上、不自然な表現の英作文を助長するため、ディベートなどのスピードが求められる活動に限り、スマホのGoogle 翻訳機能を授業中に使用可としている。ただし、文の翻訳は禁止とし、あくまでも語句レベルの翻訳にとどめ、即座に発話できるためのツールとして扱っている。最近では Google の翻訳機能もかなり向上してきており、使い手の英語レベルに左右される和英辞書より生徒にとっては使いやすい。

② 授業全般について

計画段階では、賛成側（Government）、反対側（Party Of Opposition）、審判（Judge）の三役に分けて行う予定だったが、授業日当日に大学入試受験のために欠席する生徒が複数おり、人員が手薄になると分かり、審判を無くして意見の交換のみを今回の主たる活動とした。ディベートには必ず勝敗をつけなければ生徒は一生懸命にならないと思っていたが、勝敗が無くても生徒達はモチベーションを失うことなく取り組んでくれた。勝敗に拘らず、自分の意見を英語で説得力を持って発表したい、というオーセンティックな英語への学習動機を芽生えさせられたことが、研究主題である「生涯にわたって学び続ける意欲と力を育む」に則った授業実践に出来たのではないかと自負している。

参観者の感想

- ・Debate の流れが、ワークシートで分かりやすく示されていて大変参考になりました。また、ある程度、定型文を与えることにより、生徒の個々の理解、習熟度のギャップをうまく支援し、どの生徒も活動に参加できる仕組みになっていました。ありがとうございました。
- ・生徒が意欲的に活動しておりすばらしいと思いました。ありがとうございます。
- ・授業へのスマホの持ち込みを初めて見ました。辞書としての使用も可ですか？スマホが使えるのはとても良いと思った。アプリケーションを指定してみてもいいでしょうか。Weblio がおすすめです。

学力向上フォーラム特集Ⅲ

芸術(書道、音楽)・家庭



13R 書道Ⅰ

「行書の学習」 図利帖の鑑賞と臨書
「一筆一筆、筆紙を切らないためにはどのように書くか。」

芸術科 竹村 美範

芸術科の授業での「ICT 活用」という先進的・今日的な課題と取り組んでいる。書道だけ寺子屋時代と同じ旧態依然とした学習形態でいいわけがない。本校では長い歴史と実績を上げた芸術科書道なので、人間の根幹を担当する芸術科だからこそさらなる研究を進めたい。



13R 音楽Ⅰ

音楽の要素と音色ーラヴェル「ボレロ」ー
「ラヴェルが『管弦楽の魔術師』と呼ばれる理由を探る」

感想

芸術科 鈴木 智美

鑑賞を題材とする授業は、本当に難しいと思っています。音楽を聴いてどう感じるかは生徒それぞれで、その内なる部分に教師の内なる部分を押しつけるのはいかなるものか、という考えを常にもっています。そこで今回の学力向上フォーラムで授業を公開するにあたり、新学習指導要領を理解し、小中高における新しい学力観に基づいて授業を構築したことで、従来とは違う視点で鑑賞の授業に取り組むことができたと思います。

新学習指導要領の芸術科の目標では、生活や社会の中の芸術や芸術文化と豊かに関わる資質・能力を育成することを目指しています。芸術や芸術文化と豊かに関わることは人々の生活や社会に豊かさがもたらされることにつながるわけです。生徒が豊かに関わるための知識・方法を学び、それらを活用して芸術のよさや美しさを見だし、生活を豊かなものにしていく、と考えれば今回の学力向上フォーラムで公開授業に取り組んだことには意義がありました。

今回の取り組みの中でも強く感じたことは、小中高の連携がかなり重要になっている、ということでした。芸術科教員は、基本的に各校1人の配置ですので、情報交換が非常に難しい環境です。ともすれば取り善がりな授業をしがちになる危険も十分ありますので、そういう意味では校種を問わず助言をいただけたことは幸でした。

私は教員としては古いほうに分類されますので、指導目標や内容の変容について行けていない部分がたくさんあることにも気づきました。時代は明らかに変化していることを念頭に置きつつ、私の音楽への思いは揺らぐことなく深化させていきたいものだと思います。よい機会をいただきありがとうございました。

参加者の感想

- ・注目させたい組合せについての説明が少し長くなった印象。まとめの時間が足りなくなって残念。生徒はしっかり聴き取れているので生徒に気づかせるように
- ・全曲鑑賞の途中では口頭による指導ではなく図示するなどして「聴覚」の持続は曲に対してあったほうがよい。(抜粋)

令和元年度 商業科の取り組み

商業科 佐々木 優子

今年度の商業科の1年間の取り組みについて紹介します。

●全商1級検定3種目以上合格者数15名（4年連続秋田県1位）

6種目取得3名、5種目取得3名、4種目取得2名、3種目取得7名（今年度卒業生33名中）

●講習会

・センター簿記講習会（8月2日間） 3年生進学希望者12名、教諭1名参加

講師：仙台大原簿記情報公務員専門学校 本田 萌丈氏

・全商情報処理1級講習会（12月1日間） 2年生1月検定受験者13名、教諭2名参加

講師：盛岡情報ビジネス専門学校 山口 裕氏

・日商簿記2級講習会（2月2日間） 進学希望者及び日商2級受験者16名、教諭1名参加

講師：仙台大原簿記情報公務員専門学校 中島 京哉氏

●大会出場

・全国高等学校珠算・電卓大会県予選 電卓の部2年生2名、3年生1名出場

会場：秋田市文化会館 団体競技 第4位

・東北六県高等学校珠算・電卓大会県予選 電卓の部1年生3名、2年生3名出場

会場：秋田市文化会館 団体競技 第4位（東北大会出場）

種目別競技 伝票算 第2位

電卓の部1年生2名、2年生1名団体出場

・東北六県高等学校珠算・電卓大会

会場：岩手県立盛岡商業高等学校

・秋田県高等学校ワープロ競技大会

2年生4名、3年生2名出場

会場：秋田県立大曲高等学校

団体競技 第4位（東北大会出場）

・東北六県高等学校ワープロ競技大会

団体競技2年生3名、3年生2名出場

会場：秋田県立大曲高等学校

・秋田県高等学校ワープロ新人戦競技大会 2年3名出場

会場：秋田県生涯学習センター 団体競技 第6位

●イベントの参加

・商工会議所まつり（5月） 2年生2名、3年生3名参加

・秋の稔りフェア（10月） 3年生30名参加

・大仙・美郷スイーツバイキング（11月） 1年生4名2年生3名参加

・リーダーズキャンプ（1月） 2年生4名参加

●商業科としての取り組み

○商業科集会

3年生の司会進行により5月と12月の年2回商業科集会を実施した。1、2年生からの質問について3年生からアドバイスをした。1、2年生にとって今後の学校生活や進路実現に向けての意識付けができた。

○3年生課題研究

大仙市や商業科のPR活動を7班に分かれて活動した。

・ラーメン・カフェマップポスター・フリーペーパー（通年）

・学校祭で開発商品販売と商業科PR（6月）

・体験入学で中学生に向けて商業科紹介（7月）

・商業科開発商品ふるさと納税返礼品登録（8月）

・東北六県商業教育研究大会へ開発商品提供（9月）

・大曲中学校3年生の希望者へ放課後商業科紹介（10月）

・大仙市秋の稔りフェア新商品「すにゃっく」販売マスメディアで紹介（10月）

・大仙・美郷スイーツバイキング開発商品PR（11月）

・課題研究発表会3年生が1年間の活動の成果や反省点を1、2年生と青年会議所4名へ発表（1月）